

みなさん、2020年はどのような一年でしたか?新型コロナウイルスが流行し、緊急事態宣言が発令され、オリンピックが延期となり、明るいニュースが少なかったという方も多いのではないのでしょうか。—それでも、文化は枯れることなく咲き続けます。文化が美しく咲き続けられるように、「新しい形」で私たちが力を合わせていきましょう。

第47回豊橋市民お月見会を開催しました。

第47回豊橋市民お月見会を開催し、今年も多くのご応募をいただきました。俳句138句、短歌98首、川柳99句の中から「特選」「秀逸」「佳作」「学生の部 優秀」がそれぞれ選ばれました。「特選」「秀逸」「学生の部 優秀」作品をご紹介します。

特選作品ご紹介

【俳句の部】
エブロンで手を拭ひつつ月を待つ

増谷いち子

(増谷さんコメント)

名月の頃は忙しい。月白を見たいため、月の出を見たいため、三日月の頃から家と庭を行ったり来たり。特に十五夜は心が騒ぐ。五時前から七時頃まで出たり入ったりを繰り返す。食事の支度を何度も止めて家人に飽きられながら月を待つ。私にとって一年で一番楽しい夜なのかもしれません。

<俳句を始められたきっかけ>

中学2年生の春、国語の教師だった桑原鯨音先生に誘っていただいて「白南風」と名付けられた句会で月に2回、先生の宿直の日に校長室で俳句を始めました。今でも、あの頃の先生の句、仲間の句を鮮明に覚えています。

今では俳句をやっているのは私ひとりだけになってしまいました。私にとって俳句は素晴らしい人たちと言葉・感覚を磨き合える、一番の生き甲斐です。

【短歌の部】

病室の灯火ひとつひとつ消え満月だけが夜空に灯る

高柳尚子

(高柳さんコメント)

コロナで大変な今年のお月見の夜、いつもより遅く子供達と夜空を見上げ始めました。夜10時近くになると街の灯がへりはじめ、遠くにそびえる病院の高い建物の窓の明かりも、ひとつずつ消灯していきました。そんな中、ひとり夜空に残り、静かな光を注ぎ続ける満月は、それぞれの病室にそれぞれの思いを抱えて眠りにつこうとする人々をあたたく見守ってくれる存在に思えてきたのです。不思議な感覚を覚えた夜でした。

<短歌を始められたきっかけ>

短歌を始めたのは20代はじめだったと思います。母と、その短歌の仲間の方々とみどり湖(愛知県)を訪れた時に作ったのが、きっかけでした。

日常の生活の中で、ふとメモしておきたい、気憶しておきたい“感覚”を短歌の定型の中にかいつぶさずに入れられるか考えるのがとても貴重なひとときになっています。心の頼りどころのひとつとなっているかも知れません。

毎年、母と通った豊橋のお月見会がなつかしく、大池のほとりや、三の丸会館の様々な気憶とともに、豊橋を離れ、母が亡くなった今も、子供達と続けています。

【川柳】

食いしばる自肅の民を照らす月

近藤清司

(近藤さんコメント)

コロナに覆われた人々誰もが苦しんでいます。どんな形であれ不安を抱えています。不用意な外出は控えるように、今すぐすべきではない事はしないようになど、規制された声が残っています。

自肅とはきつい言葉ですが、それは、自分で考え判断して行動する。何事も慎みを持ってやりましようと言うことでしょうか。

今年、中秋の名月は、幸いこの地を明るく照らしてくれました。夜が更け、外に出ると辺りは静かです。コロナ禍の満月が「今、暫くの期間、辛いけど辛抱しよう、頑張ってください。」と。「なすべきこと、やりたいことは多いけど、軽はずみな行いに気をつけて」と呼び掛けているようでした。その満月は、前方には、私たちの幸せがはっきり見えているかのよう…。

<川柳を始められたきっかけ>

川柳は関心があり、時々、新聞、雑誌に目を落としていました。私が作品を手掛けたのは、2000年頃からNHK学園「川柳春秋」通信講座です。受講者作品の選句、添削指導のレポート送付など数

【私のB級?コレクション展】出展者を募集します。

絵画、パッチワーク、プラモデル、盆栽、ポスター、ブリキのおもちゃ、郷土玩具、レアな切手コレクション、絵手紙、コスプレ写真など、この機会にぜひ、ご自身の創作物の数々、あるいは蒐集物の数々を展示し、世間に幅広くその価値を広げてみませんか?

開催日 ● 令和3年3月13日(土)～14日(日)

時間 ● 10時～16時

会場 ● 豊橋市民文化会館2階展示室

出展料 ● 無料

▶ 搬入日 / 令和3年3月13日(土) 8時30分～10時

▶ 搬出日 / 令和3年3月14日(日) 16時～18時

▶ 会館で用意するもの / 机、椅子、壁面吊り下げ用の金具、展示用パネル

▶ 出展者で用意するもの / 上記以外のすべて

▶ 申込方法 / 要綱を確認の上、指定の申込書によりお申込み下さい。

年、勉強の時期がありました。以後は、時々投句の場を見つけて楽しんでいます。ある先生が、川柳は「誰にでも分かって、誰にでも作れる句」と言われました。私の心構えにしています。

秀逸作品ご紹介

【俳句の部】
微醺の歩今宵の月のついて来し

大河美智子

まだ床に就くをためらふ 良夜かな

河邊満江

腕白が指のピストル月を撃つ

小林秋鳳

【短歌の部】

髪ざっと束ね廊下へ十六夜の瑠璃に映せる吾影黒し

中村佐世子

水切りで水面の月を壊したり光の欠片よりそもどに

久野敦子

故郷を壊滅させし水の痕仮設の空に名月のゆく

浅井定子

【川柳の部】

名月や今日は亡き子の誕生日

小椋恵美子

夜勤行く子の背を撫でる月明かり

松井則雄

十五夜のスポット浴びてウォーキング

栗栖洋子

学生の部 優秀作品ご紹介

【短歌の部】
満月もstay homeにあきたかな十月一日ひよこ顔出す

高柳ポール杏音

【川柳の部】

まん月へすすきのほうきひとつ飛び

伊藤柚香

入選作品集を配布しています。

今回のお月見会の入選作品集を、三の丸会館、豊橋市民文化会館、穂の国とよはし芸術劇場で無料配布しています。

新春文化団体交流会の開催中止について

例年1月に開催しています、「新春文化団体交流会」ですが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大を鑑み、開催を中止いたします。

1月から3月の月例茶会中止について

11月5日茶道クラブ役員会を三の丸会館で開催し、令和3年1月から3月までの月例茶会は開催を中止することとなりました。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

財団加盟美術団体選抜展のお知らせ

豊橋文化振興財団に加盟する写真並びに書道の団体による合同展覧会です。作品約200点を展示します。ぜひご来場ください。

と き ● 令和3年1月26日(火)～1月31日(日)
9時～17時(最終日は16時まで)

ところ ● 豊橋市美術博物館

▶ 入場料 / 無料

▶ 参加団体 / 写真: フォトクラブ「楽々」、中日写真協会豊橋支部、写真集団・四季風
書道: 泥泥舎、洗心書道会、澄心会書道、日本習字、香風書院、一穂会、豊橋楽書会、瑤玉印社、三河書芸会、自然の会、書社がざろひ、邦友会、華友会

▶ 問合せ / 豊橋文化振興財団(☎0532-39-5211)



斧路朱音

「預言鳥-YOGEN NO TORI-」

2020年 紙、インク・彩色 22.9cm×26.9cm



ヨゲンノトリとは、安政4(1857)年12月、加賀国白山にあらわれた黒と白のふたつの頭を持つ不思議な鳥で、翌年に流行するコレラを予言…「私の姿を朝夕に拝めば難を逃れることができる」と言ったそうです。「疫病退散!」の願いを込めて描きました。

今号の一枚

リレーエッセイ
ほっと豊橋

まき筆文字工房
広田かなえ

書道教室に通い始めたきっかけは、小学生の頃、隣の席の男の子に、「字が下手だなあ」と言われたことでした。悔しくて始めた習い事でしたが、地元を離れ就職後も、細く長く、実家近くの書道教室へ通い続けました。そして遂に脱サラ、Uターン。「とにかく書きたい…本格的に書を学びたい」と決心してから早二年、書道教室を始めてからは丸一年が経ちました。昨年つづしが丘にオープンした教室は、現在3歳からシニア世代までの幅広い年齢層の方々にご利用いただいています。夕方から学校帰りの子ども達が集う、明るく楽しいお稽古場です。自らよく考え、実行し、多くの発見や学ぶ

喜びを身体いっぱい表現できる子ども達。私は子ども達から多くのことを教えてもらっています。教室以外は主に制作をしています。何度も何度も練り直しながら作品を仕上げていきます。今、私が専門的に学んでいるのは、主に「仮名」です。仮名書は変体仮名を使ったり、文字の大小や強弱をつけたりしながら、自由自在に変化させることができる、私にとって非常に奥の深い書道のジャンルです。さらに、筆や墨、紙を変えたりすれば、変化は無敵大です。制作をしていけば時間を忘れ、気が付けば汗だくに。優雅なイメージのある書道ですが、大きな作品はかなりの体力を使います。ただ、不思議なことに、身体は疲れても、筆をとると不思議と心が落ち着き、身体もメンテナンスされていくような気がします。ある大人の生徒さんは「書道の面白さはまだよくわからないけど、無心になれる時間が本当に心地いい」とおっしゃっていました。書は、喧騒を忘れ、自分自身と向きあう時間を提供してくれます。

文化団体紹介

Vol.32

煎茶売茶流

美味しいお茶を淹れるためにお点前がある

今回は煎茶売茶流東三河支部さんへおじゃましてきました。この日は生徒さん2名のお稽古で、岩瀬先生の明るくおらかなオーラが教室の雰囲気をも優しく包んでいました。

「1煎目は玉露の甘み、2煎目は渋みを愉しみます。お湯の温度や量、蒸らす時間、使う急須などで味が変わるのがお抹茶と違っておもしろいですね。だから、淹れる人によっても味が全然違います。『お茶を淹れる音に風情があるように、風情を感じられるように淹れて』とよく言われますが、これがなかなか難しい。冬はほうじ茶を使ったお点前もしますよ。」と煎茶道の魅力を先生が教えてくださいました。取材した日は無架式と呼ばれる、棚のないお点前のお稽古をしていましたが、使う道具が変わるとお点前の流れも変わるそうです。生徒さんが持って来られた、初代山田常山の急須とイギリスのロイヤルクラウンのお皿を使い、この話で盛り上がりしていました。

煎茶道は1660年頃、茶道(お抹茶)

が形式にとらわれすぎているというところから始まり、売茶翁が広めたと言われていました。売茶翁は茶を売りながら時代の批判をしたり、和歌や漢詩を詠んだりし、伊藤若冲や与謝蕪村などの文人との交流もあったそうです。「形式にとらわれない」「道具に凝り固まらない」ことをモットーに始まった煎茶道ですが、江戸末期には様々な流派に分かれました。取材した煎茶売茶流さんは家元が名古屋で、東は関東から西は九州まで10支部あり、東三河支部には100名ほどいらっしゃるそうです。

「お茶の世界は覚えようとしてはダメ、慣れが大切です。美味しいお茶を淹れるのが大切。お点前が完璧になれば美味しいお茶が淹れられる、つまり美味しいお茶を淹れるためにお点前があるんです。」と、素敵なお話を伺うことができました。

煎茶売茶流さんは「サーラくらしときめきアカデミー」でも講座を行っています。ご興味のある方は事務局まで。





市内文化団体主催および豊橋文化振興財団が後援する催し物を中心に掲載しています。掲載のご希望は、問合せまでご連絡ください。

※この予定表は予告なく変更する場合がありますので、事前にお確かめください。入場料は前売料金。

Table of events for January. Includes dates (e.g., 5日(火), 6日(水)), event names (e.g., 第2回 東三河新春書展), times, locations, and entry fees.

Table of events for February. Includes dates (e.g., 2日(火), 6日(土)), event names (e.g., 第13回千切会会員作品展), times, locations, and entry fees.

豊橋の文化活動—アーカイブス④

～豊橋の劇場と演劇～

文学座公演迫る!

◇昭和21年12月3日午後5時

◇豊橋市公会堂

新劇といえは、我々の生活とかけ離れた演劇のように感ずる人達が少なくない。事実これまで数ある新劇団のうちには、所謂独りよがり的なものもあつたが、然しそれはその一片影に過ぎなくて、決して新劇全体に通じる批評でもなく、また間違つた観方である。新劇はいつまでもなく、我が国伝統の演劇である歌舞伎劇や新派その他の大衆劇へ反動的に生れたものである。従来の演劇は俳優中心のものであつたり、その筋のみを楽しむようなものであつた。演劇を観て「ああ面白かつた」とか、とても「悲しかった」などと云うにすぎなかつた。つまり一種の見せ物的存在だったのである。新劇はそんなことであつてはならない。劇そのものの中に織り込まれた思想、つまり、作者が舞台を通じて切実に叫ぶ思想をつぶさに検討し、そして我々がこれから本当に生きていこうとする真実の姿を見つめるのが新劇なのである。従つて新劇は何よりその作品価値が高く買われている所以である。では、新劇とはどんな演劇であるかと、その実際を観たい人達の為に、また新劇運動に関心をもつておられる人達の為に、この度我が国新劇界の最高峰である<文学座>を招聘して公演するに至つた次第である。

☆演目

シャルル、ビルドバック 作

木藤武俊 翻訳

戌井市郎 演出

1.「商船テナシチイ」 三幕 四場

岸田國士 作 戌井市郎 演出

2.「驟雨」 一幕

八木隆一郎 作 大江良太郎 演出

3.「故郷の聲」 一幕

☆出演者☆

青野太郎・賀原夏子・大泉滉・菅文代・高原駿雄・杉村春子・龍岡晋・丹阿彌谷津子

中村伸郎・新田瑛子・宮口精二・宮内順子・三津田健

照明=國分洋一 監督=戌井市郎

入場料=一般15圓、学生5圓

尚當協会会員には特別優待券(5圓)を當協会事務所でお分けしますから、御出掛け下さい。

付記 昼の部は学生マチネで、岸田國士作「驟雨」は上演せず。

尚夜間入場の学生券には追加金5圓を頂きます。

以上は、『豊橋文化協会』主催により豊橋市公会堂で、戦後初めて開催した<文学座公演>を周知するために「豊橋文化」第1巻第4号(昭和21年)に掲載された告知文です。

また、昭和22年4月15日「豊橋文化」通巻13号には、野呂進(浅井秀雄)が『演劇随想』で、次のように記しています。

「昨年の暮れからこのごろに至る数ヶ月間に、新劇を7回観ることが出来た。その劇団と演目は…<文学座>「商船テナシチイ」「驟雨」「故郷の聲」、<文学座>「女の一生」、<新協>「どん底」、<薔薇座>「東京哀詩」、<俳優座>「愛と死との戯れ」、<文学座>「怒濤」、<新協>「武器と自由」…以上の通りで、このうち最初の<文学座>を豊橋で観た以外、後の6つは全部名古屋の名實文化劇場であった。新劇が生れて以来既に40余ヶ年の歳月を閲しているが、「新劇は儲からぬもの」として、金儲け第一にしていた地方の興行家には相手にされず、ほとんど東京でくらしていたが、終戦後、全国的に膨湃と湧きあがった演劇熱に乗じて、地方公演までに進出して来たことは、地方の演劇ファンにとってこの上ない嬉しいことである。もっとも、豊橋のような小さな街にもズツと前に、<築地>や<新協>が2,3回来演したことがあるが、その後は全く中絶の状態であった。くわしいことはしらないが、名古屋とて豊橋同様の有様ではなかつたのではなからうか。(中略)…文化振興にあたって、新劇が有力な文化財であることは論をまたない、敗戦以来世相混沌として、人々が右にせんか、左にせんかとさまよっているとき、もっとも簡単明瞭に、しかも楽しく、面白く将来に光明を与えるのが新しい演劇運動の使命でなくてはならない。」

その後も豊橋文化協会主催で、東京や名古屋の劇団による演劇が、豊橋市公会堂で毎年のように開催され、豊橋市民にも次第に浸透していきます。

(事務局コメント)

昭和22年という、戦後間もない頃です。今よりはるかに貧しい時代にも関わらず、ここに書かれている文章から溢れ出る生命力、文化芸術に対する熱意や信念にはただ脱帽するばかりです。昭和42年に豊橋市民文化会館、平成6年にはライフポートとよはし、そして平成25年には穂の国とよはし芸術劇場が開館するなど、施設はもちろん様々な政策も充実し環境は大きく発展しました。今では豊かな社会には文化芸術が必要不可欠であると多くの人が考えています。このことはともすれば経済成長、経済的な豊かさの結果だと考えてしまいますが、これは、先人たちの文化芸術に対する熱意や信念があつてこそのものであるのだと改めて過去から呼び覚まされるような思いがします。

もちろん、社会状況は大きく変わりました。少子高齢化、低経済成長など先行きは不透明です。しかし、今も不透明な時代なら当時も同じでしょう。記事にも「我々がこれから本当に生きていこうとする真実の姿を見極める」とあります。この言葉を先人からのエールと受け取り事業を実施してまいります。

豊橋総合いけばな展を開催しました。



▲南宗流による大作展示

▲自由闊達な児童展示コーナー

文化短信

豊橋市民俳句会 第633回句会
▼豊橋市民俳句会 第633回句会
秋月に緩病棟浮き立ちぬ
あかあかと命噴きあきく曼珠沙華
額の如眸を縁取る曼珠沙華
田の神は若石一つ曼珠沙華
天水の桶に嵌まりぬ今日の月
設楽原馬防柵に沿ふ曼珠沙華
桃源の雲湧く棚田曼珠沙華
本堂に調経の満つる秋彼岸
櫛田のみどりに洗ふ吾の心
藤田源一
▼豊橋市民俳句会 第635回句会
一病を抱へて生きる今朝の冬
コスモスやトーチカ囲むニュータウン
伍コービーとリウ音を今朝の冬
風ぎわたる伊良湖朝や今朝の冬
みそ汁の椀の温もり朝寒し
親は子に何を語らふ冬初め
石垣は伊予の青石今朝の冬
秋時雨シャベルで掬ふ人の骨
妻の笑み忘れる病婦の花
篠田和代
▼豊橋市民俳句会 第633回句会
地ほてりの中にかすかな虫の声
涼新た庖丁の銘浮きあたる
来し方をしめじみ回顧敬老日
露草や幾とせ崇む六地藏
父母の墓抜く手に迷ふほたる草
露草に一時足を止めけり
出兵の欠きし狼犬秋の声
露草や人定塚は標のみ
露草や足並み揃ふ通学路
鳥威し模造のたかのたけだけし
六十年結婚アルバム敬老日
山中たけし
▼豊橋市民俳句会 第634回句会
秋月に緩病棟浮き立ちぬ
あかあかと命噴きあきく曼珠沙華
額の如眸を縁取る曼珠沙華
田の神は若石一つ曼珠沙華
天水の桶に嵌まりぬ今日の月
設楽原馬防柵に沿ふ曼珠沙華
桃源の雲湧く棚田曼珠沙華
本堂に調経の満つる秋彼岸
櫛田のみどりに洗ふ吾の心
藤田源一
▼豊橋市民俳句会 第635回句会
一病を抱へて生きる今朝の冬
コスモスやトーチカ囲むニュータウン
伍コービーとリウ音を今朝の冬
風ぎわたる伊良湖朝や今朝の冬
みそ汁の椀の温もり朝寒し
親は子に何を語らふ冬初め
石垣は伊予の青石今朝の冬
秋時雨シャベルで掬ふ人の骨
妻の笑み忘れる病婦の花
篠田和代
▼豊橋市民俳句会 第633回句会
毎日独り芝居の役者です
ひとりとは自由孤独の裏表
ひとり旅気ままに歩く晴れ続く
一人ではできない事を助け合う
おばあちゃん曾孫の動作ははら
老いらくの恋のスリルは要介護
アクセルを踏んで追いつく越すド
キドキで
主婦業が終わったはずが又役目
何故いつも損な役目が巡り来る
子のクッション夫婦の摩擦和らげる
こんなもの効くかとサブリ飲
んで
たかかベト口すべらせてから疎遠
見過ごしたたかか致命傷になる
鈴木順子
▼豊橋市民俳句会 第634回句会
秋月に緩病棟浮き立ちぬ
あかあかと命噴きあきく曼珠沙華
額の如眸を縁取る曼珠沙華
田の神は若石一つ曼珠沙華
天水の桶に嵌まりぬ今日の月
設楽原馬防柵に沿ふ曼珠沙華
桃源の雲湧く棚田曼珠沙華
本堂に調経の満つる秋彼岸
櫛田のみどりに洗ふ吾の心
藤田源一
▼豊橋市民俳句会 第635回句会
一病を抱へて生きる今朝の冬
コスモスやトーチカ囲むニュータウン
伍コービーとリウ音を今朝の冬
風ぎわたる伊良湖朝や今朝の冬
みそ汁の椀の温もり朝寒し
親は子に何を語らふ冬初め
石垣は伊予の青石今朝の冬
秋時雨シャベルで掬ふ人の骨
妻の笑み忘れる病婦の花
篠田和代
▼豊橋市民俳句会 第633回句会
毎日独り芝居の役者です
ひとりとは自由孤独の裏表
ひとり旅気ままに歩く晴れ続く
一人ではできない事を助け合う
おばあちゃん曾孫の動作ははら
老いらくの恋のスリルは要介護
アクセルを踏んで追いつく越すド
キドキで
主婦業が終わったはずが又役目
何故いつも損な役目が巡り来る
子のクッション夫婦の摩擦和らげる
こんなもの効くかとサブリ飲
んで
たかかベト口すべらせてから疎遠
見過ごしたたかか致命傷になる
鈴木順子
▼豊橋市民俳句会 第634回句会
秋月に緩病棟浮き立ちぬ
あかあかと命噴きあきく曼珠沙華
額の如眸を縁取る曼珠沙華
田の神は若石一つ曼珠沙華
天水の桶に嵌まりぬ今日の月
設楽原馬防柵に沿ふ曼珠沙華
桃源の雲湧く棚田曼珠沙華
本堂に調経の満つる秋彼岸
櫛田のみどりに洗ふ吾の心
藤田源一
▼豊橋市民俳句会 第635回句会
一病を抱へて生きる今朝の冬
コスモスやトーチカ囲むニュータウン
伍コービーとリウ音を今朝の冬
風ぎわたる伊良湖朝や今朝の冬
みそ汁の椀の温もり朝寒し
親は子に何を語らふ冬初め
石垣は伊予の青石今朝の冬
秋時雨シャベルで掬ふ人の骨
妻の笑み忘れる病婦の花
篠田和代
▼豊橋市民俳句会 第633回句会
毎日独り芝居の役者です
ひとりとは自由孤独の裏表
ひとり旅気ままに歩く晴れ続く
一人ではできない事を助け合う
おばあちゃん曾孫の動作ははら
老いらくの恋のスリルは要介護
アクセルを踏んで追いつく越すド
キドキで
主婦業が終わったはずが又役目
何故いつも損な役目が巡り来る
子のクッション夫婦の摩擦和らげる
こんなもの効くかとサブリ飲
んで
たかかベト口すべらせてから疎遠
見過ごしたたかか致命傷になる
鈴木順子
▼豊橋市民俳句会 第634回句会
秋月に緩病棟浮き立ちぬ
あかあかと命噴きあきく曼珠沙華
額の如眸を縁取る曼珠沙華
田の神は若石一つ曼珠沙華
天水の桶に嵌まりぬ今日の月
設楽原馬防柵に沿ふ曼珠沙華
桃源の雲湧く棚田曼珠沙華
本堂に調経の満つる秋彼岸
櫛田のみどりに洗ふ吾の心
藤田源一
▼豊橋市民俳句会 第635回句会
一病を抱へて生きる今朝の冬
コスモスやトーチカ囲むニュータウン
伍コービーとリウ音を今朝の冬
風ぎわたる伊良湖朝や今朝の冬
みそ汁の椀の温もり朝寒し
親は子に何を語らふ冬初め
石垣は伊予の青石今朝の冬
秋時雨シャベルで掬ふ人の骨
妻の笑み忘れる病婦の花
篠田和代
▼豊橋市民俳句会 第633回句会
毎日独り芝居の役者です
ひとりとは自由孤独の裏表
ひとり旅気ままに歩く晴れ続く
一人ではできない事を助け合う
おばあちゃん曾孫の動作ははら
老いらくの恋のスリルは要介護
アクセルを踏んで追いつく越すド
キドキで
主婦業が終わったはずが又役目
何故いつも損な役目が巡り来る
子のクッション夫婦の摩擦和らげる
こんなもの効くかとサブリ飲
んで
たかかベト口すべらせてから疎遠
見過ごしたたかか致命傷になる
鈴木順子
▼豊橋市民俳句会 第634回句会
秋月に緩病棟浮き立ちぬ
あかあかと命噴きあきく曼珠沙華
額の如眸を縁取る曼珠沙華
田の神は若石一つ曼珠沙華
天水の桶に嵌まりぬ今日の月
設楽原馬防柵に沿ふ曼珠沙華
桃源の雲湧く棚田曼珠沙華
本堂に調経の満つる秋彼岸
櫛田のみどりに洗ふ吾の心
藤田源一
▼豊橋市民俳句会 第635回句会
一病を抱へて生きる今朝の冬
コスモスやトーチカ囲むニュータウン
伍コービーとリウ音を今朝の冬
風ぎわたる伊良湖朝や今朝の冬
みそ汁の椀の温もり朝寒し
親は子に何を語らふ冬初め
石垣は伊予の青石今朝の冬
秋時雨シャベルで掬ふ人の骨
妻の笑み忘れる病婦の花
篠田和代
▼豊橋市民俳句会 第633回句会
毎日独り芝居の役者です
ひとりとは自由孤独の裏表
ひとり旅気ままに歩く晴れ続く
一人ではできない事を助け合う
おばあちゃん曾孫の動作ははら
老いらくの恋のスリルは要介護
アクセルを踏んで追いつく越すド
キドキで
主婦業が終わったはずが又役目
何故いつも損な役目が巡り来る
子のクッション夫婦の摩擦和らげる
こんなもの効くかとサブリ飲
んで
たかかベト口すべらせてから疎遠
見過ごしたたかか致命傷になる
鈴木順子
▼豊橋市民俳句会 第634回句会
秋月に緩病棟浮き立ちぬ
あかあかと命噴きあきく曼珠沙華
額の如眸を縁取る曼珠沙華
田の神は若石一つ曼珠沙華
天水の桶に嵌まりぬ今日の月
設楽原馬防柵に沿ふ曼珠沙華
桃源の雲湧く棚田曼珠沙華
本堂に調経の満つる秋彼岸
櫛田のみどりに洗ふ吾の心
藤田源一
▼豊橋市民俳句会 第635回句会
一病を抱へて生きる今朝の冬
コスモスやトーチカ囲むニュータウン
伍コービーとリウ音を今朝の冬
風ぎわたる伊良湖朝や今朝の冬
みそ汁の椀の温もり朝寒し
親は子に何を語らふ冬初め
石垣は伊予の青石今朝の冬
秋時雨シャベルで掬ふ人の骨
妻の笑み忘れる病婦の花
篠田和代
▼豊橋市民俳句会 第633回句会
毎日独り芝居の役者です
ひとりとは自由孤独の裏表
ひとり旅気ままに歩く晴れ続く
一人ではできない事を助け合う
おばあちゃん曾孫の動作ははら
老いらくの恋のスリルは要介護
アクセルを踏んで追いつく越すド
キドキで
主婦業が終わったはずが又役目
何故いつも損な役目が巡り来る
子のクッション夫婦の摩擦和らげる
こんなもの効くかとサブリ飲
んで
たかかベト口すべらせてから疎遠
見過ごしたたかか致命傷になる
鈴木順子
▼豊橋市民俳句会 第634回句会
秋月に緩病棟浮き立ちぬ
あかあかと命噴きあきく曼珠沙華
額の如眸を縁取る曼珠沙華
田の神は若石一つ曼珠沙華
天水の桶に嵌まりぬ今日の月
設楽原馬防柵に沿ふ曼珠沙華
桃源の雲湧く棚田曼珠沙華
本堂に調経の満つる秋彼岸
櫛田のみどりに洗ふ吾の心
藤田源一
▼豊橋市民俳句会 第635回句会
一病を抱へて生きる今朝の冬
コスモスやトーチカ囲むニュータウン
伍コービーとリウ音を今朝の冬
風ぎわたる伊良湖朝や今朝の冬
みそ汁の椀の温もり朝寒し
親は子に何を語らふ冬初め
石垣は伊予の青石今朝の冬
秋時雨シャベルで掬ふ人の骨
妻の笑み忘れる病婦の花
篠田和代
▼豊橋市民俳句会 第633回句会
毎日独り芝居の役者です
ひとりとは自由孤独の裏表
ひとり旅気ままに歩く晴れ続く
一人ではできない事を助け合う
おばあちゃん曾孫の動作ははら
老いらくの恋のスリルは要介護
アクセルを踏んで追いつく越すド
キドキで
主婦業が終わったはずが又役目
何故いつも損な役目が巡り来る
子のクッション夫婦の摩擦和らげる
こんなもの効くかとサブリ飲
んで
たかかベト口すべらせてから疎遠
見過ごしたたかか致命傷になる
鈴木順子
▼豊橋市民俳句会 第634回句会
秋月に緩病棟浮き立ちぬ
あかあかと命噴きあきく曼珠沙華
額の如眸を縁取る曼珠沙華
田の神は若石一つ曼珠沙華
天水の桶に嵌まりぬ今日の月
設楽原馬防柵に沿ふ曼珠沙華
桃源の雲湧く棚田曼珠沙華
本堂に調経の満つる秋彼岸
櫛田のみどりに洗ふ吾の心
藤田源一
▼豊橋市民俳句会 第635回句会
一病を抱へて生きる今朝の冬
コスモスやトーチカ囲むニュータウン
伍コービーとリウ音を今朝の冬
風ぎわたる伊良湖朝や今朝の冬
みそ汁の椀の温もり朝寒し
親は子に何を語らふ冬初め
石垣は伊予の青石今朝の冬
秋時雨シャベルで掬ふ人の骨
妻の笑み忘れる病婦の花
篠田和代
▼豊橋市民俳句会 第633回句会
毎日独り芝居の役者です
ひとりとは自由孤独の裏表
ひとり旅気ままに歩く晴れ続く
一人ではできない事を助け合う
おばあちゃん曾孫の動作ははら
老いらくの恋のスリルは要介護
アクセルを踏んで追いつく越すド
キドキで
主婦業が終わったはずが又役目
何故いつも損な役目が巡り来る
子のクッション夫婦の摩擦和らげる
こんなもの効くかとサブリ飲
んで
たかかベト口すべらせてから疎遠
見過ごしたたかか致命傷になる
鈴木順子
▼豊橋市民俳句会 第634回句会
秋月に緩病棟浮き立ちぬ
あかあかと命噴きあきく曼珠沙華
額の如眸を縁取る曼珠沙華
田の神は若石一つ曼珠沙華
天水の桶に嵌まりぬ今日の月
設楽原馬防柵に沿ふ曼珠沙華
桃源の雲湧く棚田曼珠沙華
本堂に調経の満つる秋彼岸
櫛田のみどりに洗ふ吾の心
藤田源一
▼豊橋市民俳句会 第635回句会
一病を抱へて生きる今朝の冬
コスモスやトーチカ囲むニュータウン
伍コービーとリウ音を今朝の冬
風ぎわたる伊良湖朝や今朝の冬
みそ汁の椀の温もり朝寒し
親は子に何を語らふ冬初め
石垣は伊予の青石今朝の冬
秋時雨シャベルで掬ふ人の骨
妻の笑み忘れる病婦の花
篠田和代
▼豊橋市民俳句会 第633回句会
毎日独り芝居の役者です
ひとりとは自由孤独の裏表
ひとり旅気ままに歩く晴れ続く
一人ではできない事を助け合う
おばあちゃん曾孫の動作ははら
老いらくの恋のスリルは要介護
アクセルを踏んで追いつく越すド
キドキで
主婦業が終わったはずが又役目
何故いつも損な役目が巡り来る
子のクッション夫婦の摩擦和らげる
こんなもの効くかとサブリ飲
んで
たかかベト口すべらせてから疎遠
見過ごしたたかか致命傷になる
鈴木順子
▼豊橋市民俳句会 第634回句会
秋月に緩病棟浮き立ちぬ
あかあかと命噴きあきく曼珠沙華
額の如眸を縁取る曼珠沙華
田の神は若石一つ曼珠沙華
天水の桶に嵌まりぬ今日の月
設楽原馬防柵に沿ふ曼珠沙華
桃源の雲湧く棚田曼珠沙華
本堂に調経の満つる秋彼岸
櫛田のみどりに洗ふ吾の心
藤田源一
▼豊橋市民俳句会 第635回句会
一病を抱へて生きる今朝の冬
コスモスやトーチカ囲むニュータウン
伍コービーとリウ音を今朝の冬
風ぎわたる伊良湖朝や今朝の冬
みそ汁の椀の温もり朝寒し
親は子に何を語らふ冬初め
石垣は伊予の青石今朝の冬
秋時雨シャベルで掬ふ人の骨
妻の笑み忘れる病婦の花
篠田和代
▼豊橋市民俳句会 第633回句会
毎日独り芝居の役者です
ひとりとは自由孤独の裏表
ひとり旅気ままに歩く晴れ続く
一人ではできない事を助け合う
おばあちゃん曾孫の動作ははら
老いらくの恋のスリルは要介護
アクセルを踏んで追いつく越すド
キドキで
主婦業が終わったはずが又役目
何故いつも損な役目が巡り来る
子のクッション夫婦の摩擦和らげる
こんなもの効くかとサブリ飲
んで
たかかベト口すべらせてから疎遠
見過ごしたたかか致命傷になる
鈴木順子
▼豊橋市民俳句会 第634回句会
秋月に緩病棟浮き立ちぬ
あかあかと命噴きあきく曼珠沙華
額の如眸を縁取る曼珠沙華
田の神は若石一つ曼珠沙華
天水の桶に嵌まりぬ今日の月
設楽原馬防柵に沿ふ曼珠沙華
桃源の雲湧く棚田曼珠沙華
本堂に調経の満つる秋彼岸
櫛田のみどりに洗ふ吾の心
藤田源一
▼豊橋市民俳句会 第635回句会
一病を抱へて生きる今朝の冬
コスモスやトーチカ囲むニュータウン
伍コービーとリウ音を今朝の冬
風ぎわたる伊良湖朝や今朝の冬
みそ汁の椀の温もり朝寒し
親は子に何を語らふ冬初め
石垣は伊予の青石今朝の冬
秋時雨シャベルで掬ふ人の骨
妻の笑み忘れる病婦の花
篠田和代
▼豊橋市民俳句会 第633回句会
毎日独り芝居の役者です
ひとりとは自由孤独の裏表
ひとり旅気ままに歩く晴れ続く
一人ではできない事を助け合う
おばあちゃん曾孫の動作ははら
老いらくの恋のスリルは要介護
アクセルを踏んで追いつく越すド
キドキで
主婦業が終わったはずが又役目
何故いつも損な役目が巡り来る
子のクッション夫婦の摩擦和らげる
こんなもの効くかとサブリ飲
んで
たかかベト口すべらせてから疎遠
見過ごしたたかか致命傷になる
鈴木順子
▼豊橋市民俳句会 第634回句会
秋月に緩病棟浮き立ちぬ
あかあかと命噴きあきく曼珠沙華
額の如眸を縁取る曼珠沙華
田の神は若石一つ曼珠沙華
天水の桶に嵌まりぬ今日の月
設楽原馬防柵に沿ふ曼珠沙華
桃源の雲湧く棚田曼珠沙華
本堂に調経の満つる秋彼岸
櫛田のみどりに洗ふ吾の心
藤田源一
▼豊橋市民俳句会 第635回句会
一病を抱へて生きる今朝の冬
コスモスやトーチカ囲むニュータウン
伍コービーとリウ音を今朝の冬
風ぎわたる伊良湖朝や今朝の冬
みそ汁の椀の温もり朝寒し
親は子に何を語らふ冬初め
石垣は伊予の青石今朝の冬
秋時雨シャベルで掬ふ人の骨
妻の笑み忘れる病婦の花
篠田和代
▼豊橋市民俳句会 第633回句会
毎日独り芝居の役者です
ひとりとは自由孤独の裏表
ひとり旅気ままに歩く晴れ続く
一人ではできない事を助け合う
おばあちゃん曾孫の動作ははら
老いらくの恋のスリルは要介護
アクセルを踏んで追いつく越すド
キドキで
主婦業が終わったはずが又役目
何故いつも損な役目が巡り来る
子のクッション夫婦の摩擦和らげる
こんなもの効くかとサブリ飲
んで
たかかベト口すべらせてから疎遠
見過ごしたたかか致命傷になる
鈴木順子
▼豊橋市民俳句会 第634回句会
秋月に緩病棟浮き立ちぬ
あかあかと命噴きあきく曼珠沙華
額の如眸を縁取る曼珠沙華
田の神は若石一つ曼珠沙華
天水の桶に嵌まりぬ今日の月
設楽原馬防柵に沿ふ曼珠沙華
桃源の雲湧く棚田曼珠沙華
本堂に調経の満つる秋彼岸
櫛田のみどりに洗ふ吾の心
藤田源一
▼豊橋市民俳句会 第635回句会
一病を抱へて生きる今朝の冬
コスモスやトーチカ囲むニュータウン
伍コービーとリウ音を今朝の冬
風ぎわたる伊良湖朝や今朝の冬
みそ汁の椀の温もり朝寒し
親は子に何を語らふ冬初め
石垣は伊予の青石今朝の冬
秋時雨シャベルで掬ふ人の骨
妻の笑み忘れる病婦の花
篠田和代
▼豊橋市民俳句会 第633回句会
毎日独り芝居の役者です
ひとりとは自由孤独の裏表
ひとり旅気ままに歩く晴れ続く
一人ではできない事を助け合う
おばあちゃん曾孫の動作ははら
老いらくの恋のスリルは要介護
アクセルを踏んで追いつく越すド
キドキで
主婦業が終わったはずが又役目
何故いつも損な役目が巡り来る
子のクッション夫婦の摩擦和らげる
こんなもの効くかとサブリ飲
んで
たかかベト口すべらせてから疎遠
見過ごしたたかか致命傷になる
鈴木順子
▼豊橋市民俳句会 第634回句会
秋月に緩病棟浮き立ちぬ
あかあかと命噴きあきく曼珠沙華
額の如眸を縁取る曼珠沙華
田の神は若石一つ曼珠沙華
天水の桶に嵌まりぬ今日の月
設楽原馬防柵に沿ふ曼珠沙華
桃源の雲湧く棚田曼珠沙華
本堂に調経の満つる秋彼岸
櫛田のみどりに洗ふ吾の心
藤田源一
▼豊橋市民俳句会 第635回句会
一病を抱へて生きる今朝の冬
コスモスやトーチカ囲むニュータウン
伍コービーとリウ音を今朝の冬
風ぎわたる伊良湖朝や今朝の冬
みそ汁の椀の温もり朝寒し
親は子に何を語らふ冬初め
石垣は伊予の青石今朝の冬
秋時雨シャベルで掬ふ人の骨
妻の笑み忘れる病婦の花
篠田和代
▼豊橋市民俳句会 第633回句会
毎日独り芝居の役者です
ひとりとは自由孤独の裏表
ひとり旅気ままに歩く晴れ続く
一人ではできない事を助け合う
おばあちゃん曾孫の動作ははら
老いらくの恋のスリルは要介護
アクセルを踏んで追いつく越すド
キドキで
主婦業が終わったはずが又役目
何故いつも損な役目が巡り来る
子のクッション夫婦の摩擦和らげる
こんなもの効くかとサブリ飲
んで
たかかベト口すべらせてから疎遠
見過ごしたたかか致命傷になる
鈴木順子
▼豊橋市民俳句会 第634回句会
秋月に緩病棟浮き立ちぬ
あかあかと命噴きあきく曼珠沙華
額の如眸を縁取る曼珠沙華
田の神は若石一つ曼珠沙華
天水の桶に嵌まりぬ今日の月
設楽原馬防柵に沿ふ曼珠沙華
桃源の雲湧く棚田曼珠沙華
本堂に調経の満つる秋彼岸
櫛田のみどりに洗ふ吾の心
藤田源一
▼豊橋市民俳句会 第635回句会
一病を抱へて生きる今朝の冬
コスモスやトーチカ囲むニュータウン
伍コービーとリウ音を今朝の冬
風ぎわたる伊良湖朝や今朝の冬
みそ汁の椀の温もり朝寒し
親は子に何を語らふ冬初め
石垣は伊予の青石今朝の冬
秋時雨シャベルで掬ふ人の骨
妻の笑み忘れる病婦の花
篠田和代
▼豊橋市民俳句会 第633回句会
毎日独り芝居の役者です
ひとりとは自由孤独の裏表
ひとり旅気ままに歩く晴れ続く
一人ではできない事を助け合う
おばあちゃん曾孫の動作ははら
老いらくの恋のスリルは要介護
アクセルを踏んで追いつく越すド
キドキで
主婦業が終わったはずが又役目
何故いつも損な役目が巡り来る
子のクッション夫婦の摩擦和らげる
こんなもの効くかとサブリ飲
んで
たかかベト口すべらせてから疎遠
見過ごしたたかか致命傷になる
鈴木順子
▼豊橋市民俳句会 第634回句会
秋月に緩病棟浮き立ちぬ
あかあかと命噴きあきく曼珠沙華
額の如眸を縁取る曼珠沙華
田の神は若石一つ曼珠沙華
天水の桶に嵌まりぬ今日の月
設楽原馬防柵に沿ふ曼珠沙華
桃源の雲湧く棚田曼珠沙華
本堂に調経の満つる秋彼岸
櫛田のみどりに洗ふ吾の心
藤田源一
▼豊橋市民俳句会 第635回句会
一病を抱へて生きる今朝の冬
コスモスやトーチカ囲むニュータウン
伍コービーとリウ音を今朝の冬
風ぎわたる伊良湖朝や今朝の冬
みそ汁の椀の温もり朝寒し
親は子に何を語らふ冬初め
石垣は伊予の青石今朝の冬
秋時雨シャベルで掬ふ人の骨
妻の笑み忘れる病婦の花
篠田和代
▼豊橋市民俳句会 第633回句会
毎日独り芝居の役者です
ひとりとは自由孤独の裏表
ひとり旅気ままに歩く晴れ続く
一人ではできない事を助け合う
おばあちゃん曾孫の動作ははら
老いらくの恋のスリルは要介護
アクセルを踏んで追いつく越すド
キドキで
主婦業が終わったはずが又役目
何故いつも損な役目が巡り来る
子のクッション夫婦の摩擦和らげる
こんなもの効くかとサブリ飲
んで
たかかベト口すべらせてから疎遠
見過ごしたたかか致命傷になる
鈴木順子
▼豊橋市民俳句会 第634回句会
秋月に緩病棟浮き立ちぬ
あかあかと命噴きあきく曼珠沙華
額の如眸を縁取る曼珠沙華
田の神は若石一つ曼珠沙華
天水の桶に嵌まりぬ今日の月
設楽原馬防柵に沿ふ曼珠沙華
桃源の雲湧く棚田曼珠沙華
本堂に調経の満つる秋彼岸
櫛田のみどりに洗ふ吾の心
藤田源一
▼豊橋市民俳句会 第635回句会
一病を抱へて生きる今朝の冬
コスモスやトーチカ囲むニュータウン
伍コービーとリウ音を今朝の冬
風ぎわたる伊良湖朝や今朝の冬
みそ汁の椀の温もり朝寒し
親は子に何を語らふ冬初め
石垣は伊予の青石今朝の冬
秋時雨シャベルで掬ふ人の骨
妻の笑み忘れる病婦の花
篠田和代
▼豊橋市民俳句会 第633回句会
毎日独り芝居の役者です
ひとりとは自由孤独の裏表
ひとり旅気ままに歩く晴れ続く
一人ではできない事を助け合う
おばあちゃん曾孫の動作ははら
老いらくの恋のスリルは要介護
アクセルを踏んで追いつく越すド
キドキで
主婦業が終わったはずが又役目
何故いつも損な役目が巡り来る
子のクッション夫婦の摩擦和らげる
こんなもの効くかとサブリ飲
んで
たかかベト口すべらせてから疎遠
見過ごしたたかか致命傷になる
鈴木順子
▼豊橋市民俳句会 第634回句会
秋月に緩病棟浮き立ちぬ
あかあかと命噴きあきく曼珠沙華
額の如眸を縁取る曼珠沙華
田の神は若石一つ曼珠沙華
天水の桶に嵌まりぬ今日の月
設楽原馬防柵に沿ふ曼珠沙華
桃源の雲湧く棚田曼珠沙華
本堂に調経の満つる秋彼岸
櫛田のみどりに洗ふ吾の心
藤田源一
▼豊橋市民俳句会 第635回句会
一病を抱へて生きる今朝の冬
コスモスやトーチカ囲むニュータウン
伍コービーとリウ音を今朝の冬
風ぎわたる伊良湖朝や今朝の冬
みそ汁の椀の温もり朝寒し
親は子に何を語らふ冬初め
石垣は伊予の青石今朝の冬
秋時雨シャベルで掬ふ人の骨
妻の笑み忘れる病婦の花
篠田和代
▼豊橋市民俳句会 第633回句会
毎日独り芝居の役者です
ひとりとは自由孤独の裏表
ひとり旅気ままに歩く晴れ続く
一人ではできない事を助け合う
おばあちゃん曾孫の動作ははら
老いらくの恋のスリルは要介護
アクセルを踏んで追いつく越すド
キドキで
主婦業が終わったはずが又役目
何故いつも損な役目が巡り来る
子のクッション夫婦の摩擦和らげる
こんなもの効くかとサブリ飲
んで
たかかベト口すべらせてから疎遠
見過ごしたたかか致命傷になる
鈴木順子
▼豊橋市民俳句会 第634回句会
秋月に緩病棟浮き立ちぬ
あかあかと命噴きあきく曼珠沙華
額の如眸を縁取る曼珠沙華
田の神は若石一つ曼珠沙華
天水の桶に嵌まりぬ今日の月
設楽原馬防柵に沿ふ曼珠沙華
桃源の雲湧く棚田曼珠沙華
本堂に調経の満つる秋彼岸
櫛田のみどりに洗ふ吾の心
藤田源一
▼豊橋市民俳句会 第635回句会
一病を抱へて生きる今朝の冬
コスモスやトーチカ囲むニュータウン
伍コービーとリウ音を今朝の冬
風ぎわたる伊良湖朝や今朝の冬
みそ汁の椀の温もり朝寒し
親は子に何を語らふ冬初め
石垣は伊予の青石今朝の冬
秋時雨シャベルで掬ふ人の骨
妻の笑み忘れる病婦の花
篠田和代
▼豊橋市民俳句会 第633回句会
毎日独り芝居の役者です
ひとりとは自由孤独の裏表
ひとり旅気ままに歩く晴れ続く
一人ではできない事を助け合う
おばあちゃん曾孫の動作ははら
老いらくの恋のスリルは要介護
アクセルを踏んで追いつく越すド
キドキで
主婦業が終わったはずが又役目
何故いつも損な役目が巡り来る
子のクッション夫婦の摩擦和らげる
こんなもの効くかとサブリ飲
んで
たかかベト口すべらせてから疎遠
見過ごしたたかか致命傷になる
鈴木順子
▼豊橋市民俳句会 第634回句会
秋月に緩病棟浮き立ちぬ
あかあかと命噴きあきく曼珠沙華
額の如眸を縁取る曼珠沙華
田の神は若石一つ曼珠沙華
天水の桶に嵌まりぬ今日の月
設楽原馬防柵に沿ふ曼珠沙華
桃源の雲湧く棚田曼珠沙華
本堂に調経の満つる秋彼岸
櫛田のみどりに洗ふ吾の心
藤田源一
▼豊橋市民俳句会 第635回句会
一病を抱へて生きる今朝の冬
コスモスやトーチカ囲むニュータウン
伍コービーとリウ音を今朝の冬
風ぎわたる伊良湖朝や今朝の冬
みそ汁の椀の温もり朝寒し
親は子に何を語らふ冬初め
石垣は伊予の青石今朝の冬
秋時雨シャベルで掬ふ人の骨
妻の笑み忘れる病婦の花
篠田和代
▼豊橋市民俳句会 第633回句会
毎日独り芝居の役者です
ひとりとは自由孤独の裏表
ひとり旅気ままに歩く晴れ続く
一人ではできない事を助け合う
おばあちゃん曾孫の動作ははら
老いらくの恋のスリルは要介護
アクセルを踏んで追いつく越すド
キドキで
主婦業が終わったはずが又役目
何故いつも損な役目が巡り来る
子のクッション夫婦の摩擦和らげる
こんなもの効くかとサブリ飲
んで
たかかベト口すべらせてから疎遠
見過ごしたたかか致命傷になる
鈴木順子
▼豊橋市民俳句会 第634回句会
秋月に緩病棟浮き立ちぬ
あかあかと命噴きあきく曼珠沙華
額の如眸を縁取る曼珠沙華
田の神は若石一つ曼珠沙華
天水の桶に嵌まりぬ今日の月
設楽原馬防柵に沿ふ曼珠沙華
桃源の雲湧く棚田曼珠沙華
本堂に調経の満つる秋彼岸
櫛田のみどりに洗ふ吾の心
藤田源一
▼豊橋市民俳句会 第635回句会
一病を抱へて生きる今朝の冬
コスモスやトーチカ囲むニュータウン
伍コービーとリウ音を今朝の冬
風ぎわたる伊良湖朝や今朝の冬
みそ汁の椀の温もり朝寒し
親は子に何を語らふ冬初め
石垣は伊予の青石今朝の冬
秋時雨シャベルで掬ふ人の骨
妻の笑み忘れる病婦の花
篠田和代
▼豊橋市民俳句会 第633回句会
毎日独り芝居の役者です
ひとりとは自由孤独の裏表
ひとり旅気ままに歩く晴れ続く
一人ではできない事を助け合う
おばあちゃん曾孫の動作ははら
老いらくの恋のスリルは要介護
アクセルを踏んで追いつく越すド
キドキで
主婦業が終わったはずが又役目
何故いつも損な役目が巡り来る
子のクッション夫婦の摩擦和らげる
こんなもの効くかとサブリ飲
んで
たかかベト口すべらせてから疎遠
見過ごしたたかか致命傷になる
鈴木順子
▼豊橋市民俳句会 第634回句会
秋月に緩病棟浮き立ちぬ
あかあかと命噴きあきく曼珠沙華
額の如眸を縁取る曼珠沙華
田の神は若石一つ曼珠沙華
天水の桶に嵌まりぬ今日の月
設楽原馬防柵に沿ふ曼珠沙華
桃源の雲湧く棚田曼珠沙華
本堂に調経の満つる秋彼岸
櫛田のみどりに洗ふ吾の心
藤田源一
▼豊橋市民俳句会 第635回句会
一病を抱へて生きる今朝の冬
コスモスやトーチカ囲むニュータウン
伍コービーとリウ音を今朝の冬
風ぎわたる伊良湖朝や今朝の冬
みそ汁の椀の温もり朝寒し
親は子に何を語らふ